

ごあいさつ

日本幼児体育学会 会長 前橋 明

(早稲田大学 教授/医学博士)

運動遊具や固定遊具は、子どもたちの健康の増進や体力づくり、情操を豊かにすることを目的として、つくられた遊具（施設）で、子どもたちに、安全でかつ健全なあそびや運動の場を提供してくれます。みなさんも、ご存じのように、よく見受けられる遊具・施設としては、プランコやすべり台、うんてい、ジャングルジム等があります。

これらの遊具を安全に利用するためには、日頃からのメンテナンスが重要です。日常のメンテナンスの実施、定期点検をすること、さらには、製品の構造的な部分や対処の難しい箇所については、専門家に依頼して、修理や改善をしておくことが求められます。

また、安全な遊具であっても、その使い方を誤ると、ケガや事故が起こります。遊具の安全な使い方を知ること、それらの基本を、使う子どもたちにも指導しておくことが求められます。

もちろん、子どもたちだけでなく、保育現場の先生方や体育指導の先生方にも、つまり、子どもたちと関わるすべての大人やリーダーの人たちに、ぜひとも知っておいていただきたいのが、運動遊具や固定施設の安全管理の基本と安全指導の方法です。なかでも、自由あそびのときの遊具使用についての約束は、しっかり教えておく必要があります。しかし、次のようなささやかな約束事を、子どもたちに的確に伝えられる指導者が、はたして、どのくらいいるのでしょうか。

- ①靴をしっかり履いて、脱げないようにする。
- ②マフラーのように、引っかかりやすいものは取って遊ぶ。
- ③上着の前を開けっ放しにしない。
- ④ランドセルやカバンは置いて遊ぶ。
- ⑤ひも付き手袋はしない。
- ⑥上から物を投げない。
- ⑦高所から飛び降りない。
- ⑧遊具に、ひもを巻きつけない。
- ⑨濡れた遊具では、遊ばない。
- ⑩壊れた遊具では、遊ばない。壊れた箇所を大人に伝える。

本書で提供する安全管理の基本や安全指導の内容・方法をしっかり把握していただき、運動遊具や固定遊具（施設）の安全管理・安全指導スペシャリストとして、幼児の体育指導や運動の指導が、より安全に展開できるように、また、日本全国をはじめ、世界へと、広く普及して、子どもたちの運動や運動あそびをより充実させていただきたいと願います。

はじめに

運動遊具、中でも、固定遊具は、登ったり、渡ったり、滑ったりして、みんなが楽しくからだを動かして遊べる遊具です。子どもたちは、遊具でのあそびを通して、心身の発達、友だちとの協力・共同・譲り合い等の社会的・道徳的発達、遊び方を工夫する知的発達などを育み、あわせて、危険予知能力、安全能力をも養います。つまり、運動遊具は、子どもたちの成長・発達を促進する重要な遊具であり、施設というわけです。

そのため、安全性への配慮は、遊具には不可欠です。まずは、設置に先立ち、子どもたちの動きの流れ・導線や遊具の配置を周到に行い、子どもたちが出合い頭にぶつかったり、運動の流れが極度につまったりしないよう、安全、かつ、スムーズに、遊具を使った楽しいあそびが展開できるようにしておくことが大切です。

また、遊具の安全のためには、活動に必要なとされる空間を確保すること（安全区域の確保）も、極めて重要なことです。子どもが遊具から落下したり、飛び出したりした場合に、到達すると想定される範囲です。この空間内には、遊具本体を除き、照明灯やマンホール、縁石などの施設や、石やガラス等の異物があってはなりません。

わくわくする遊具のもつリスク（予測できる危険）は、子どもたちの挑戦したい気持ちを掻き立ててくれ、その状況下で、様々なあそびや運動をすることによって、身体能力をより一層高めていきます。ただし、予測できない危険「ハザード」はなくすことが必要です。ハザードは、遊具の挑戦的要素とは関係のないところで発生する危険のことです。ハザードには、物的ハザードと人的ハザードの2種類があります。

物的ハザードとは、遊具の不適切な配置や構造、不十分な維持管理による遊具の不良などに問題がある危険です。人的ハザードとは、遊具使用時に、ふざけて押し合ったり、絡みやすい紐のついた手袋や靴を履く等して、遊具使用の方法に問題がある場合です。これらの危険は、子どもたちのあそびの中では、予測のできない危険であり、遊具の設計者や管理者、保護者などの大人が注意して未然に防ぐ必要があります。

遊具は、正しい使い方をして、仲良く遊びましょう。遊具に不具合があるときは、安心して遊具を使えるよう、専門業者による点検のほか、指導者による点検を実施してもらいたいものです。遊具を利用して、不具合や異変を感じた時は、管理者に連絡をすることが大切です。早期発見・早期対応が事故防止に繋がりますので、大人の協力が必要です。ねじが緩んでいたり、異音が生じたりするときは、子どもも、すみやかに近くにいる大人に伝えるよう、幼少児期から指導しておくことが重要です。

また、立体遊具は、ネットで囲っておくことをおすすめします。さらに、ウレタン素材を多く使用することで、転倒時のケガによる負担を軽減するように、計画しておくことも必要です。

そして、遊具を安全に利用するためには、日頃からのメンテナンスが重要です。日常のメンテナンスの実施、また、「定期点検」をすること、さらには、製品の構造的な部分や、対処の難しい箇所については、専門家に依頼して、修理や改善をしておくことが求められます。

さて、安全な遊具であっても、その使い方を誤ると、ケガや事故が起こります。遊具の安全な使い方を知ること、指導しておくことが求められます。保育現場の先生方や体育指導の先生方だけでなく、子どもたちと関わるすべての大人やリーダーの人たちに、ぜひとも知っておいていただきたいのが、安全指導の方法です。

自由あそびの場面するときにも、遊具の使用についての約束事は、しっかり教えておく必要があります。例えば、①靴をしっかり履いて、脱げないようにする、②マフラーのように、引っかかりやすいものは取って遊ぶ、③上着の前を開けっ放しにしない、④ランドセルやカバンは置いて遊ぶ、⑤ひも付き手袋はしない、⑥上から物を投げない、⑦高所から飛び降りない、⑧遊具に、ひもを巻きつけない、⑨濡れた遊具では、遊ばない、⑩壊れた遊具では、遊ばない、壊れた箇所を大人に伝える等です。

本書で、提供する安全管理や安全指導の内容をしっかり把握していただき、子どもたちへの体育指導や運動の指導を、より充実させていただきたいと願います。

前橋 明

運動遊具の安全管理・安全指導スペシャリスト

目次

ごあいさつ 日本幼児体育学会会長 前橋 明 i

はじめに 前橋 明 iii

第Ⅰ章 固定遊具の利用とその安全 前橋 明 1

1. 固定遊具の点検と結果の対応 1
2. 安全に配慮した遊具の設計と製品そのものの安全性 3
 - (1) 安全に配慮した設計 3
 - (2) 製品そのものの安全性 3
 - (3) 設計・設置上の留意点 3

第Ⅱ章 固定遊具、近年の総合遊具や公園遊具の特徴と安全な使い方
..... 前橋 明 5

1. 固定遊具や総合遊具の特徴 5
 - (1) すべり台 5
 - (2) ブランコ 5
 - (3) うんてい 5
 - (4) モニュメント遊具・恐竜遊具 5
 - (5) 木登り遊具 6
2. 近年の公園遊具の特徴 6
3. 遊具の安全な使い方 6

第Ⅲ章 固定遊具とその使い方、養うことのできる能力
..... 前橋 明・永井伸人・ジャクエツ 8

1. 固定遊具の使い方 8
 - (1) ブランコ 11
 - (2) 鉄棒 12
 - (3) ジャングルジム 14
 - (4) すべり台 14
 - (5) 太鼓橋 15
 - (6) うんてい 16
 - (7) その他の遊具や複合遊具 16
2. 固定遊具で養うことのできる能力 17

- (1) ロープはしご **17**
- (2) 縄はしご渡り **18**
- (3) 弓形スロープ **18**
- (4) タイヤリング **18**
- (5) 吊り輪渡り **19**
- (6) レールうんてい **19**
- (7) ゆらゆらパネル登り **19**
- (8) リング登り **20**
- (9) U字はしご渡り **20**
- (10) パネルジャングル **20**
- (11) 波形パイプ登り **21**
- (12) 円盤うんてい **21**
- (13) パネル渡り **21**
- (14) リングうんてい **22**
- (15) ゴムステップ渡り **22**
- (16) ロープ伝い **22**
- (17) R形うんてい **23**
- (18) つり円盤渡り **23**
- (19) 円盤渡り **23**
- (20) クロスネット渡り **24**
- (21) ロープ渡り **24**
- (22) はしご渡り **24**
- (23) ゆらゆらネット渡り **25**
- (24) 波形通路 **25**
- (25) ファイヤーポール **26**
- (26) ハンガーレール **26**
- (27) すべり台 **26**
- (28) ドラム **27**

第IV章 固定遊具を利用して育つ要素の解説 前橋 明 **28**

- 1. 体力 (physical fitness) **28**
 - (1) 行動を起こす力 **28**
 - (2) 持続する力 **28**

- (3) 正確に行う力（調整力） 28
- (4) 円滑に行う力 29
- 2. 運動スキル（movement skills） 29
- 3. 体力と運動能力（motor ability） 29
- 4. 運動時に育つ能力 29

第V章 固定遊具での事故によるケガの手当 浅川和美 31

- 1. 固定遊具での事故によるケガ 31
- 2. 応急処置の基本 32
- 3. 応急処置の実際 32
 - (1) 挫創（すり傷・切り傷） 32
 - (2) 鼻出血 33
 - (3) 挫傷（打撲傷） 33
 - (4) 骨折 34
 - (5) 頭部打撲 35

第VI章 遊具安全点検（劣化） ジャクエツ 36

- 1. 目的 36
- 2. 点検の考え方 36
- 3. 点検の種類 36
- 4. 点検の実施技術者（遊具点検士） 37
- 5. 点検方法 37
- 6. 劣化判断基準 37
- 7. 点検書類の作成と報告 39
- 8. 点検の安全 40
 - (1) 服装（標準） 40
 - (2) 安全管理 40

第VII章 遊具別劣化点検のポイント ジャクエツ 41

- 1. ブランコ 41
- 2. すべり台 43
- 3. 鉄棒 45
- 4. シーソー 47

5. スプリング遊具	49
6. うんてい	51
7. ジャングルジム	53
8. 太鼓橋	55
9. 登はん棒	56
10. 平均台	58
11. スイング遊具	59
12. ローラーすべり台	60
13. 回転遊具	62
14. ネットクライム	64
15. 砂場	66
16. 総合遊具	67

資料編	69
------------------	-----------

劣化点検表	70
サーキットあそび	89

おわりに	前橋 明	90
------------	------------	----